


研修から見える家庭科の授業改善の視点

1 はじめに

基本研修講座における家庭科の研修では、模擬授業による演習と協議を中心として、授業力の向上を目指しております。今回は高等学校経験者研修Ⅱでの講座内容を紹介し、高等学校家庭科における授業改善の視点について考えます。

2 高等学校経験者研修Ⅱにおける研修の実際

(1) 日程

<p>一日目</p>	<p>講義・協議 「高等学校家庭科の学習指導と指導上の諸問題Ⅰ」 講義 「家庭科の授業づくりを考える ～VTRを用いた授業研究をとおして～」 宮城教育大学 教授 中屋紀子先生</p> <p>研修者の授業VTRを基に、授業を客観的に見て授業改善の方向を探るストップモーション方式での授業研究の方法について学びました。</p>	<p>中屋先生による VTRを用いた授業研究</p> 
<p>二日目</p>	<p>講義・演習 「授業改善の在り方」 演習・協議 「模擬授業と授業改善」</p> <p>授業改善の視点を明確に持ち、それぞれの授業を評価し、改善方法を考えることを通して、一人一人の授業力向上を目指しました。</p>	<p>模擬授業と授業改善</p> 
<p>三日目</p>	<p>講義 「高等学校における保育学習の意義と実践」 安達東高等学校 教頭 瀬谷真理子先生 講義・協議 「高等学校家庭科の学習指導と指導上の諸問題Ⅱ」</p> <p>保育学習の意義を踏まえ、生きることの尊さを実感させる教育を充実することが大切であることを学びました。また、男女共同参画社会と子育て支援については、フランス、デンマーク、スウェーデンでの取り組みなどを紹介していただきました。</p>	<p>瀬谷先生による 保育学習に関する講義</p> 

3 研修から見える授業改善の視点

VTRを用いたストップモーション方式の授業研究、模擬授業における研修者の感想には、次のようなものがありました。

(1) VTRを用いたストップモーション方式の授業研究

- 家庭科教員が1名の学校では、教科指導において他者からアドバイスや評価を受ける機会は非常に少ない。VTRを活用した授業研究は、大いに今後の自らの授業改善に役立つと思う。日ごろの自分の発問の仕方や配付資料の作成等についても反省すべき点に気付くことができた。
- 自分の授業を客観的にとらえて改善しようと思うと、研究授業等での参観者からの意見・助言だけでは見つけにくい短所が多くある。例えば、板書の仕方、声の大きさ、机間指導の度合い等々、VTRに記録すると一目りょう然であり、授業を作るという視点から今回の講義で、資料の効果的な活用の仕方、焦点の絞り方がとても勉強になった。
- ストップモーション方式によって、教員の一つ一つの質問や指示の重要性を把握した。何げない発問が逆に生徒たちの考えを混乱させてしまう場合があることに気付かされた。生徒の興味・関心も私たちの問いかけで左右されてしまう。すべての行動に意味があることを意識して取り組まなければならない。

(2) 模擬授業

- 他の先生方の授業を拝見し、教材の選び方や展開の仕方が様々であり、先生方の工夫や個性を感じてとても勉強になった。また、自分の授業についても、よい点、改善点を付せん紙に書いていただいたことで、それに即して授業改善を考えることができ、参考になった。
- 様々な授業をみることで自分の授業を振り返ることができ、刺激を受けた。授業の構成を考え、評価と結びつけながら展開させていくことの重要性を認識した。
- 先生方の模擬授業に生徒役として参加することにより、授業づくりの大切さを実感した。授業研究では指導案の書き方なども細かく助言いただき大変勉強になった。

(3) 授業改善の視点

これらの感想から、「授業を構築する力」、「指導技術」、「指導と評価の一体化」などが、授業改善の視点として見えてきました。

授業を構築する力

協議の中では、「これまで、活動そのものを目的として、授業を展開してしまった。活動を通して何を身に付けさせるのか、学習のねらいを明確にしなければならない」という意見が出されました。学習の展開の仕方は授業の目標を達成できるものとなっているか、教材は、目標達成のために有効で、その選定は適切であるかなど、見極めることが大切であり、授業の組立てや教材選定に対する思考を深めなければなりません。また、家庭科においては、学習指導要領に示された学習内容について相互に関連を図るなど、題材を工夫し、限られた単位数でも、効果的に学習を展開する工夫が必要となります。さらに、習得した知識や技術を実生活で生かす能力や、各自の生活の中から課題を見だし、主体的に問題解決ができる能力を育成できる授業を展開し、生徒の実践的な態度や問題解決能力を高めていくことが重要です。

指導技術

生徒の立場に立ち、授業を見ることで、発問や板書の仕方等の「指導技術」について、工夫が必要であることを再確認しました。効果的に情報機器を活用し、授業を展開した模擬授業では、板書やパワーポイントによる提示には、それぞれに長所・短所があり、目的に応じて使い分ける必要があること、情報機器に関しては、目的達成のための手段であり、それ自体が目的とならないようにすることなどを確認しました。

また、実践的・体験的な学習活動が中心となる家庭科では、内容に応じて、一斉指導、グループ活動、ワークショップ形式などを取り入れ、学習形態を工夫していくことが重要です。

常に生徒の実態を把握し、それに応じた生徒にとってわかりやすい授業を心がけていくことが求められます。

指導と評価の一体化

模擬授業や学習指導案からは、目標が達成できたかを確認できる評価となっているか、また、その評価方法は適切なものかななどの課題が出されました。目標との整合性を図った評価規準を設定するとともに、生徒の学習活動に合った適切な評価方法を工夫しなければなりません。指導後の知識・理解のみに重点を置くのではなく、ワークシートの記入状況、思考の深まりの状況が確認できるレポート、観察記録などにより、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」についても、バランス良く評価を行い、生徒一人一人の変容を長期的にとらえることが重要です。

また、評価した結果を今後の学習指導の工夫・改善に生かすことが大切であり、指導と評価の一体化を常に意識して日々の授業に臨むことが必要です。

4 おわりに

日々の授業を振り返ることは、授業を改善していくために大切なことです。自分一人で取り組むよりも、授業を他の先生に見ていただいたり見せていただいたりすることで、指導法や教材選定についての視野を広げることができます。また、家庭科担当教員が一人である学校の先生方は、授業をVTRに録画して持ち寄ることで、効果的な授業研究が可能となります。

質の高い授業を求める姿勢を持つことが授業改善につながる重要な要素です。自校にあった形での授業研究の在り方なども考慮して、授業改善に取り組んでいただきたい。